質 問 者　　阿　部　美紀子

質　問　事　項	質　　問　　の　　要　　旨
1　原発に依存しない町、産業の強化を	６月に原発対策特別委員会で福井県美浜原発の視察に行きました。その感想として、原発マネー、交付金への依存の高さが報告されました。昨年、東京で開催された原発立地自治体の意見交換会、通称原発サミットにおいても、各地の議員の発言から依存の高さを感じました。 以前行った一般質問の中で、「女川の基幹産業、主要産業は何か」という私の問いに、即座に町長は「水産業です」と答弁されました。 ＳＤＧｓを進めるうえで、膨大な温排水を排出する原発は、温暖化対策の優等生とはいえません。オフグリットやマイクログリットに取り組む未来が来ると思います。 女川が自立できる主要産業の確立、強化をすべきと考え、町長の考えを伺います。 （質問の相手：町長）
2　防災に強い教育、互近所の力を育てよう	（１）今年は、1923年９月１日の関東大震災から100年目を迎えました。当時、井戸に毒を投げ入れた、放火したなどのデマにより、朝鮮人や中国人が虐殺されました。また、朝鮮人等を判

質問者　阿部 美紀子

質問事項	質問の要旨
	別するため濁点の多い言葉等を言わせ、発音のよくできない沖縄人、東北人が巻き込まれたといいます。 歴史からの教訓として、また、震災を経験し皆で支え合ってきた教訓として、子どもも大人も集団の力やデマに惑わされない教育、時には常識も正しくないことがありますから、良心、良識に従う教育が必要と思います。 町長、教育長の考えを伺います。 （２）昨年、議員講座で山村武彦氏の講演を拝聴しました。互いに近くの人たちが助け合う「互近所」には共感を覚えました。いい言葉だと思います。私も防災のためにも地域コミュニティの重要性を訴えてきました。子どもたちにとっても、学校にいる時や親と一緒にいる時に災害にあうとは限りません。やはり、身近な付き合いの中で助け合うことが効果的と感じます。更なるコミュニティ、互近所の力で暮らしやすい町づくりを。 （質問の相手：町長・教育長・担当課長）

質問者　　阿　部　美紀子

質　問　事　項	質　問　の　要　旨
３　廃食油の資源化への取組を	８月２日、ＦＲＹ（揚げる）からＦＬＹ（飛ぶ）へという新聞記事がありました。廃食油で持続可能な航空燃料ＳＡＦを生産し、利用しようという記事です。 現在ＳＡＦは、日本では輸入に頼っています。逆に廃食油の多くは輸出されています。ＳＡＦ生産には廃食油の回収ルート確立がカギになるそうで、大手飲食産業とも協力を広げています。 女川では、廃食油は回収した後、焼却処分しています。もったいない廃食油を資源化し、収入になる仕組みづくりに取り組んではどうですか。 （質問の相手：町長・担当課長）